

# 愛知県立碧南高等学校（全日制）平成27年度学校評価

## 1 本年度の学校評価

本年度の重点目標		進路を意識した学習習慣の徹底を図る。	
項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
総務部	P T A 活動の活性化・充実	P T A 役員との連携を密にし、より多くの P T A 一般会員の参加を呼びかける。	より多くの P T A 役員や一般会員が参加できるよう企画・運営を行う。
	地域に信頼される学校づくり	地域や中学校への情報発信をより効果的に行う。	ホームページ、碧高ニュース、学校案内リーフレットなどを通じて、効果的な広報活動を行う。
教務部	考查や進路を意識して、計画的に学習する姿勢を育てる。	学習計画表や考查の目標・反省を書くことで計画性を育てる。	方策を通して、多くの生徒が学習に対する計画性を意識できること。
	やりきらせる指導体制を確立する。	提出される課題が、十分に時間をかけ、自分で解いたものとなっているようにする。	ほとんどの生徒から提出される課題が、十分に時間をかけ、自分で解いたものとなっていること。
生徒指導部	基本的な生活習慣の確立	遅刻の撲滅を目指し、朝の声かけや、遅刻の事後指導を徹底する。	遅刻指数が1.0を下回る。
	規範意識の高揚	自己と他者のための端正な身だしなみを、普段からの声かけで意識させる。	自ら律し、制服を端正に着用できるようにする。
	道徳教育（心の教育）の推進	自分から挨拶をするように声かけを行い、ボランティアなど心を強くする取組を実施する。	自己肯定感や自己有用感、コミュニケーション能力を身に付けることができるようにする。
生徒会	生徒会行事の充実	学校祭や球技大会、予餞会などの学校行事を通して生徒の人的成長を図る。	生徒自らの主体性を尊重した行事運営を行う。
	部活動の充実	部員集会や受納式、全校集会などを通して部活動の重要性を生徒に認識させる。	前年度よりも部活動参加者の増加を図る。
	ボランティア活動の充実	ハンギングバスケット、赤い羽根募金、あいさつ運動などを通してボランティア活動の重要性を生徒に認識させる。	前年度よりもボランティア活動参加者を増加させる。
進路指導部	3年間を見通した進路指導体制の確立	小論文指導や補習等のあり方を含め、系統性のある進路指導体制をつくる。	3年間の指導計画が確立されるとともに、書く指導の意義を全教員が理解できるようにする。
	生徒の進路意識と教員の進路指導意識の高揚	個別面接指導と進路ガイダンスを中心に指導を進める。	担任、学年団を中心に生徒と意思の疎通を図る。積極的に進路指導を行うことができるようにする。
	進路情報の共有化と有効活用	進路指導に有効な資料の検討及びその作成を行う。	進路指導部が有する資料を積極的に活用することができるようにする。
保健厚生部	健康意識の向上を目指し、健康診断における事前事後の有効な指導を考える。	定期健康診断後の事後指導をきめ細かく行う。	自己の健康への興味・関心を高める。
	特別支援教育の組織活動を充実させる。	アンテナを高くし、情報の収集に努める。期を逸せず対応する。	支援が必要な生徒の情報を共有化し、早期の対応を心がける。
	環境の美化を推進する。	清掃道具を整備する。ゴミの分別を意識させる。	環境美化に対する意識を向上させ、自分たちで清掃ができ、ゴミの減量にも努める。
研修部	図書館力の向上	古い図書の廃棄と新規受入れ図書の充実を図る。企画展示の充実を図る。広報活動の充実を図る。	より親しみやすい図書館づくりに心がけ、来館者数の増加を目指す。また、図書委員会の活用をはかる。
	国際理解向上	留学生の受入れ、送り出しと交流会の充実を図る。外国からの訪問者を積極的に受け入れる。	生徒の国際交流に対する関心を深めさせるとともに、地域との連携を図りながら国際交流の活発化を図る。
	校内研修活動の活性化	校内研修活動に積極的に取り組む。	教職員の多くに関心があると思われる研修テーマを設定し、参加を呼びかける。
商業科	地域連携教育の推進	課題研究の各講座を中心に外部団体（特に中学校）などとの連携を充実させる。	校内だけでなく、外部企業などと連携、協力して教育活動を行う。
	資格取得の充実	新学習指導要領に合った授業の進め方や補習のあり方を進める。	生徒の理解度に合った指導体制を確立し、無理なく進める。
	キャリア教育の充実	インターンシップなどを充実し、生徒に勤労観や職業観を身に付けさせる。	円滑な進路選択ができるように実践的なインターンシップを進める。
1年学年会	基本的な生活習慣の確立	校則の遵守、時間厳守、正しい身だしなみ、学習環境の整備等について意識させ、正しい生活を送らせる。	S T、個人面談、清掃、集会等、あらゆる機会を利用して、生徒に働きかける。
	基礎学力の育成	毎日の授業、家庭での学習が大切であることを理解させ、主体的に学習に向かう姿勢を育てる。	各教科の学習方法を年度当初に指示し、課題を必ず提出させる指導を継続する。
	進路目標の設定	的確な進路情報を提供し、自らの進路目標を設定できるように指導する。	総合的な学習の時間やL Tなどで卒業後の進路に興味を持たせ、自ら

2年学年会	基本的な生活習慣の確立	時間厳守、正しい身だしなみ、環境整備、部活動、挨拶の励行等、充実した高校生活を送らせる。	の進路にあった類型選択をさせる。ルールを守り、積極的に高校生活を送る。昨年度より遅刻数を減少させる。
	基礎学力の充実	授業や家庭学習を充実させ、自ら学ぶ姿勢を身に付けさせる。	授業・基礎トレ・補習等への積極的な参加、課題等への取組を充実させ、家庭学習の時間を増加させる。
	進路目標の確立	進路資料の提供、個別面談の充実	総合的な学習の時間やLTなどで、より具体的な進路目標を見つけさせ、安易な選択に流れないようにする。
3年学年会	基本的な生活習慣の確立、定着	時間厳守、正しい身だしなみ、清掃への積極的参加を促し、校則を遵守させる。	欠席や遅刻を安易にさせない。身だしなみで指導を受ける生徒を減少させる。学習環境の整備状況を常に確認する。
	学力の充実	授業や家庭学習に積極的に向かう自ら学ぶ姿勢を身に付けさせる。	家庭学習時間を増加させる。授業・補習・家庭学習に積極的に向かわせる。
	進路目標の達成	個別面談・進路情報提供の充実を図る。	卒業後の進路を具体的に描かせ、実現させる。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育活動のあらゆる面から、生徒に進路を意識した学習習慣の徹底を図ることができたか。</li> <li>・道徳教育について、全職員の共通理解を進め、実践的な取組を進めることができたか。</li> </ul>	

## 2 前年度の学校評価

### ア 自己評価結果等

前年度の重点目標		1 生徒の学力を一層向上させるべく、新たな授業改善を図る。	
		2 進路意識の開発と定着（キャリア教育）を図る。	
		3 全教員の共通理解と指導体制の下、規律正しい基本的な生活習慣の指導にあたる。	
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	学校行事・式典の充実	来賓及びPTA役員との連絡調整を密にし、円滑な進行を図る。	諸行事や式典における来賓及びPTA役員に対する連絡調整については、不十分な点があった。メール配信を活用して改善を図る。
	PTA活動の活性化・充実	PTA役員との連携を密にし、より多くのPTA一般会員の参加を呼びかける。	PTAの一日研修会や大学見学会、文化祭のお宝バザー等の活動に多くのPTA会員の参加があった。より多くの一般会員の参加が増えるように努める。
	地域に信頼される学校づくり	地域のイベントや活動に積極的に参加する。	「元気ッスへきなん」など、市のイベントに積極的に参加した。今後はPTAと学校の行事として参加するイベントの種類をさらに増やすことに努める。
教務部	授業における学習指導方法の向上	新学習指導要領の考え方を踏まえ、授業方法の改善を図る。教科会に依頼し、研究授業等を充実させる。	定期考査ごとの「指導結果と今後の課題」については入力・出力のプログラム作り、「まとめ」の提供時期を早くできた。教科、学年での活用を進める。
	家庭学習を充実させる方策の工夫	生徒の学力を踏まえ、「自ら解くこと」で学力が付いたと実感できる教材を意図して課題を与える。	生徒が自分の力で解くことができる難易度の課題を与えることが、学力伸長に有効であることが教員に意識されるようになり、課題の提出状況の改善が見られた。全生徒が自分の力で取り組むようにすることが課題である。
	不登校生徒に対する早期の対応	欠課時数の多い生徒に対して早期に対応し、学業を修得できるよう努める。	4、6、9時間超えの段階的指導を組織的に行うことができた。不登校の生徒の発見と早期の指導を始めることができ、不登校を理由とした進路変更が減ってきている。今後も継続する。
生徒指導部	爽やかな碧高生の育成	校門指導や身だしなみ指導において意識させる。	登校時、全教員が交代で校門指導に当たった。校門通過時の身だしなみは大半の生徒が整っている。挨拶に関しても大半の生徒はしっかりできている。自主的にできるように指導する。
	基本的な生活習慣の確立	遅刻指導の徹底、全校集会や学年集会などで呼びかける。	全校集会や学年集会時などの集合状況は良好である。通常の校内生活において、時間に対してややルーズな生徒が見られた。意識をさらに高めさせることが課題である。
	規範意識の高揚	日常の校内生活において観察指導や声かけ指導を粘り強く行う。	外部講師による各種の講演会の実施により、少しずつ意識は高まってきているが満足には至っていない。携帯電話の指導は、昨年度比50%強減少した。
生徒会	生徒会行事の充実	学校祭や球技大会、予餞会などの学校行事をとおりて生徒が人間的に成長できるようにする。	生徒会執行部をはじめとして、クラスの責任者たちが試行錯誤しながらも、積極的に行事をつくりあげようとした。その環境作りを継続・充実させる。
	部活動の充実	部員集会や受納式、全校集会などを通して部活動の重要性を生徒に認識させる。	部活動参加者は、前年度並であった。ただ全国大会に参加した部が二つに増え、よい活動実績を残す部が多かった。
	ボランティア活動の充実	ハンギングバスケット、赤い羽根募金、あいさつ運動などを通してボランティア活動の重要性を生徒に認識させる。	ハンギングバスケットや赤い羽根募金への協力は、前年度並みであった。ボランティア活動の重要性は周知できたと思う。実際に行動に移すことのできる生徒を増やすことが課題である。

進路指導部	個別指導の充実	個別面接指導、小論文指導や個別教科指導の充実を図る。	個別面接指導、小論文指導や個別教科指導の充実を目指し、3年学年団及び関係教科全教員による指導が実施できた。今後も継続発展させる。
	キャリア意識の高揚	総合的な学習の時間と進路ガイダンスを中心に指導を進める。	ガイダンスの講師の見直しを行い、学習の動機付けに加え、将来の仕事を意識させた講演を行うことができた。実践につなげる。
	進路情報の共有化と有効活用	進路指導に有効な資料の検討及びその作成を行う。	進路指導部宛に送付される様々な資料を生徒たちの手元に届くよう努力した。受験の可否情報等を学年で利用しやすい形式に整理した。
保健厚生部	健康意識の向上	定期健康診断後の事後指導をきめ細かく行う。	視力、歯周疾患、未処置歯所有者には丁寧に再検査や事後指導を行った。保健だよりを発行して、健康に興味関心を持たせる一助とした。
	特別支援教育の充実	アンテナを高くし、情報の収集に努める。期を逸せず対応する。	校内特別支援教育委員会で情報交換・対応の検討・報告を行うと同時に、心の健康づくり推進員とも連絡を密にし、各教員が適切な対応ができるように心がけた。生徒によって支援の在り方が様々で、今後もより良い方法を探していく必要がある。
	環境美化の推進	清掃道具を整備する。ゴミ分別を意識させる。	こまめに清掃道具の補充を行い、清掃が円滑にできるように努めた。分別はおおむねできていたが、ゴミの量は少なくないので、意識を持たせて減らしていく。
研修部	図書館力の向上	蔵書の効果的な配置（配架の見直し、図書廃棄の推進）、企画展示の充実	学習の利用で来館者数は増加した。ただし、貸出数の増加には結びつかなかった。蔵書の有機的な配置で、貸出増につなげる。
	教科指導技術の向上	新教育課程を踏まえ、研究授業を通して指導技術の向上を図る。	ほぼ計画どおり研究授業を行うことができた。ただ、教科内だけでの研究授業にとどまっているので、今後は他教科への参観を積極的に行うよう呼びかけていく。
	国際理解向上	留学生の受入れ、送り出しを積極的に行うとともに留学生との交流会を開催し、生徒の参加機会を増やす。	米国から2名の年間留学生を受け入れた。また、マレーシアから学生が訪問し、生徒と交流をもつことができた。本校からも海外への留学、研修に関心を示す生徒が増え、5名が次年度、夏の海外派遣に応募している。今後もより多くの生徒の国際理解への関心を深める。
商業科	地域連携教育の推進	課題研究の各講座において外部企業や団体との連携を今まで以上に充実させる。	新商品の開発、企業のホームページの作成、学校紹介ビデオの作成や地域の行事に参加するなどし、好評価を得ている。
	資格取得の充実	教員間の連携を密にして、授業の進め方や補習のあり方を改善して、資格取得数を向上させる。	補習を計画的に実施して、教員同士の連携を密にしたことで今年度も昨年度以上の結果を残した。検定が連続する時期の指導方法が課題である。
	キャリア教育の充実	ホームページ更新やイベントへの企画・参加を積極的に進める。	インターンシップを今年度も実施した。実習先を多様化するなどして参加生徒を増やしたい。
1年学年会	基本的生活習慣の確立	校則の遵守、時間厳守、正しい身だしなみ、学習環境の整備等について意識させ、正しい生活を送らせる。	校則の遵守、出席状況、身だしなみ等、毎日の教育活動の様々な場面を通じて生徒に訴え続けている。今後も根気よく指導していく。
	基礎学力の育成	毎日の授業、家庭での学習が大切であることを理解させ、主体的に学習に向かう姿勢を育てる。	新学習指導要領施行に伴い、教科会や各種研修会を通じて授業改善を行ってきた。新しい指導法や学習内容の成果は今後表れてくるはずだが、授業や家庭学習をさらに充実させ、進路実現を目指させる。
	進路目標の設定	的確な進路情報を提供し、自らの進路目標を設定できるように指導する。	総合的な学習の時間を通じて、類型選択や進路に対する意識を高め、体験的に学ぶことができた。また、個人面談や学年集会、類型選択説明会により、様々な側面から生徒に対応してきた。来年度は、さらにきめ細かい対応を生徒一人一人に与えると同時に、自分で進路について調べる力を付けさせる。
2年学年会	基本的生活習慣の確立	時間厳守、正しい身だしなみ、環境整備、部活動、挨拶の励行等、充実した高校生活を送らせる。	遅刻が多い特定の生徒は数名いるが、それ以外の生徒は出席状況は概ね良好である。欠席、早退は昨年度より4割減っている。身だしなみに関しては、多くの生徒は良好である。今後もだらけることなく指導していく。
	基礎学力の充実	授業や家庭学習を充実させ、自ら学ぶ姿勢を身に付けさせる。	授業、補習の取り組みは良好である。課題が出せない生徒もいるが、根気よく働きかけて遅れながらも提出できている。さらに自ら学ぶ姿勢を身に付けさせるために、各教科、学年で工夫をしていく必要がある。
	卒業後の進路への意識付け	進路資料の提供、個別面談の充実	各担任との面談や総合的な学習の時間、進路に関する説明会や講演会を通して、生徒にしっかりと情報提供ができたと思う。また、生徒自身もより具体的に自分の進路について考えることができた。生徒の進路実現に向けて、教員の指導力をさらに高めていく。
3年学年会	基本的生活習慣の確立	時間厳守、正しい身だしなみ、清掃への積極的参加を促し、校則を遵守させる。	遅刻・欠席の総数については、例年より多いものの、全体としては減少し、一部生徒に限られるようになった。身だしなみに関しても同様である。3年生

			になり、進路目標が明確になったために比較的落ち着いた学校生活を送れた。
	学力の充実	授業や家庭学習に積極的に向かう自ら学ぶ姿勢を身に付けさせる。	学校祭が終了して以降、多くの生徒が真剣に学習に取り組み始めた。スタートの遅さが反省点であるが、後半に限って言えば、進路実現のために、懸命に勉強する姿勢が見られた。
	進路目標の達成	個別面談・進路情報提供の充実を図る。	各担任、教科担任が積極的に進路指導に関わってくれた。面談、面接・小論文指導などの個別指導、総学など利用しての全体指導を通して、生徒の進路目標が明確となった。結果、多くの生徒が自分の希望する進路を実現することができた。
総合評価	今年度は、本年度の重点目標に対して、具体の計画及び具体の指導が実施された。また、来年度に向けて改善点が浮き彫りになった。今年度の実践を継続するとともに各学年が中核となって改善を図り、より充実した教育活動に努める。		

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施し 主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善を計画・実施し、生徒の学力向上に寄与することができたか。</li> <li>・生徒の年齢・発達に応じたキャリア発達を促す取組を計画し実施したか。</li> <li>・全教員が共通理解をもって生徒指導に当たり、生徒を、自ら気づき、改められる人間に成長させることができたか。</li> </ul>
自己評価結果について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導面で取組の成果が上がった。碧南Kプロジェクトを中心に地域との連携を図る取組ができた。普通科生徒の参加形態を広げることが課題である。</li> </ul>
今後の改善方策について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育活動のあらゆる面から、生徒に進路を意識した学習習慣の徹底を図る。</li> <li>・道徳教育について、全職員の共通理解を進め、いっそうの充実を図る。</li> </ul>
その他（学校関係者評価から出された主な意見、要望）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 進路実現のための取組が充実し、成果を上げていることが理解できた。地域への発信を進めてほしい。</li> <li>2 地域との連携（碧南Kプロジェクト）を継続し、活動してほしい。</li> <li>3 「碧南Kプロジェクト」は道徳教育、キャリア教育の面でも大切な取組だ。</li> </ol>
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成…学校評議員5名</li> <li>・評価時期…3月12日（水）</li> </ul>